

# 月報 No.77

神戸山岳会

発行日 50.5.17  
発行 神戸山岳会  
神戸市生田区中山手通1丁目  
105の9 前田方  
編集立 岡 佐智央

## 例・集会スケジュール

- |          |                 |           |      |
|----------|-----------------|-----------|------|
| 5月18日(日) | 神戸山岳会総会 登山研修所にて | P.M 1:00～ |      |
| 5月25日(日) | ボッカ 菊水山～摩耶山     | 平野 8:30   | 幸 内  |
| 6月1日(日)  | 保塁岩 R.C T       | 阪急六甲      |      |
|          |                 | 前夜 20:00  | 宮 本  |
| 6月8日(日)  | 新人歓迎登山          |           |      |
|          | 西山谷～極楽茶屋～有馬口    | 阪急御影      |      |
|          |                 | 8:30      | 内藤 2 |
| 6月4日(水)  | 委員会 於・研修所       | 19:00     |      |
| 6月11日(水) | 集 会 於・研修所       | 19:00     |      |

目 次

<b>49年度冬山合宿報告</b> .....	3
合宿記録 .....	(立岡 佐智央)..... 4
冬山合宿に想う .....	(内藤 正司)..... 6
はじめての冬山 .....	(長島 安代)..... 6
合宿の感想 .....	(幸内 義孝)..... 8
冬山合宿に於ける自己反省 .....	(田中 正裕)..... 8
気象記録 .....	(星野 辰也)..... 10
合宿を終えて .....	(立岡 佐智央)..... 10
<b>例会報告</b> .....	11
氷ノ山スキーツアー .....	(幸内 義孝)..... 11
氷ノ山・西尾根ツアー .....	(幸内 義孝)..... 11
妙見・蘇武岳スキー縦走 .....	(立岡 佐智央)..... 12
大袖池集中登山 .....	(星野 辰也)..... 13
<b>個人山行記録</b> .....	13
紅葉の黒部下廊下 .....	(新川 利夫)..... 13
京都北山 .....	(新川 利夫)..... 15
八ヶ岳・三ルンゼ登攀 .....	(内藤 保一)..... 16
比良山 .....	(幸内 義孝)..... 17
八ヶ岳 .....	..... 18
床尾山 .....	(新川 利夫)..... 18
昭和49年9月木曾駒ヶ岳集中沢登り .....	(星野 辰也)..... 19
会員動静・編集後記 .....	20

## 昭和 49 年度冬山合宿報告

中央アルプスの山々は厳冬期の北アに匹敵する厳しさには欠くが、3千米級の積雪期山岳の諸条件を充分そなえており、比較的天候に恵まれ易い点からも新人会員を交えた冬山合宿には最も適した山城のひとつにあげられよう。また、正月連休などの槍・穂高方面の喧噪を考えれば中アの静寂はひとつの魅力とも云える。昨年来中アの山々を重点的に企画してきて、今冬の木曾駒ヶ岳～空木岳の縦走をもって一応、中アの概念把握及び積雪期技術向上のワンステップとして期待通りの成果を収めることができた。

- 昭和49年 9月 木曾駒ヶ岳集中沢登り（奥三沢・前岳沢・本岳沢）  
 10月 上松～木曾駒ヶ岳～宝剣岳～槍尾岳（冬山偵察山行・幸内・田中）  
 11月 宝剣山～槍尾岳（冬山偵察山行・内藤2・立岡・野上2）  
 昭和50年 1月 木曾駒ヶ岳～空木岳縦走合宿

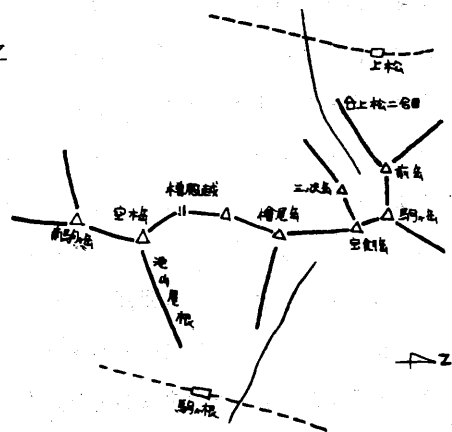
### 日程記録

- 12月30日 大阪発  
 31日 木曾福島～上松二合目～八合目  
 1月 1日 八合目～木曾駒ヶ岳～宝剣岳～槍尾岳～舟窪のコル  
 2日 舟窪のコル～東川岳～空木岳～池山尾根 2,500M 付近  
 3日 池山尾根～駒ヶ根下山

### 参加者

- C.L 内藤正司・S.L 立岡さちお・三浦靖男（装備）  
 食糧 古賀英年・星野辰也（気象）・長島安代  
 装備 田中正裕・幸内義孝（医療）  
 岸本光弘・野上博司・武田禎・星加弘之

中ア概念図



## 冬山合宿記録 (49・12/31-50・1/3)

### 木曾駒ヶ岳から空木岳

立岡 さちお

12月31日

まだ夜も明けぬ木曾福島にて下車、バス待ちの登山者を尻目に我々はチャーターしていた26人乗りのマイクロバスに乗り込む。いつになく快適で優雅な入山である。9月にもお世話になった2合目の茶屋のお婆さんが、土間にランプを灯しストーブに薪を焼べて我々を歓迎してくれた。つついこの居ごこのよいストーブの回りでおしゃべりしたり居眠りしたりして時のたつのも忘れてしまうが、重い腰を上げ、朝ぼらけの中を敬神の小屋へ出発する。5時50分。敬神の小屋より尾根をからんで登る上松道は雪も少なく夏道を忠実に辿ってゆくが、カチカチに凍って歩きづらいことこの上ない。入山日のボッカにはもったいないほどの上天気で、振り返れば御岳が一望され、5合目から上では木曾駒、宝剣の山々がキラキラと輝やいている。金懸小屋10時45分。風もなく春のようにうらかな雪陵を、適度の疲労感に身をまかせ、アイゼンもつけずに登行を楽しむ。2時10分、8合目の台地に辿りつき2張のテントを張って幕営する。

1月1日

天気図が示すように今日は昨日の好天のようなわけにはいかぬ。本当は今日からこそいい天気が欲しいのですがと思うがままならぬ。あわただしくテントをたたみ、小雪舞う暗闇の中をヘッドライトの光をたよりに出発する、5時30分。案じられていたナイフリッジも岩稜も暗闇を押してなんなく通過。明けるはずの夜もいまだ明けず、この吹雪の中の登行はつらい。前岳6時30分、玉の窪6時40分。すっかり夜も明けたが吹雪は止もうとしない。駒ヶ岳7時45分。宝剣小屋8時10分。時間的に宝剣の難場を越える余裕があるし、吹雪もおさまり見通しもきくので、行程をのばすべくザイルを出して出発する。

宝剣岳の頂上より9mmザイルを連結してフィックスとし、下降にかかる。アイゼン登降の不慣れ、重荷であることなど、安全を期して慎重な下降である。極楽平10時10分。天候は悪くもなく良くもなしで、ただ見通しが良いので舟窪のコルまで足をのばす。檜尾岳の偽ピークに二度もがっかりしてすっかり重くなった足をひきずりながら舟窪のコルにころ



がり込む。今日は予定以上のアルバイトだから残業手当を出せなどと冗談を交し合いながら、肩を組んで雪踏みをする。今日の行動を無事終り、互に肩を組んでワッショイワッショイやるこのひとときに山仲間どうしの無言の喜びがあるようで、このつらいはずのしごとが好ましく思われてならない。

1月2日

天気図で見るかぎり、低気圧の接近で明日は今日よりも悪いですよと予想したものの、あにはからんや、お山は今朝も星がまたたき、行動を強いろうとしてなさる。まあいい、晴天テンデンもあるまいと出発する、6時。アイスパーンの急斜面にアイゼンの爪を鳴らせて稜線へ直登する。風は強いが今朝は朝日が目にまばゆい。東川岳までの起伏のはげしい岩稜はトレースも風で消え去り、適確なルートファインディングを要する。しかし、ここはと思う岩場には適所にアングルが顔をのぞかせているので安心である。

こんなに下ってしまって、と嘆く程、木曾乗越へは降りきらねばならない。風の通りみちである乗越で小屋の裏へ逃げ込み、本縦走最後の登りにそなえる。稜線では雪煙が舞い、風がうなっている。頂上までは安堵して腰をおろす平もなかり。9時55分乗越を出発。

息もつかぬ烈風に身を構え、一步一步と高みを勝ちとるとき雪稜の歩みは、冬山の醍醐味というものだろう。この雪稜の続く高みが頂上かと思えば、なんと豊かな苦しみだろうと思う。頂上直下のいやな岩場をノーザイルで越し、丁度12時、明るいつ円頂にぼんととびだした。みんなよく頑張ったものだ。平凡な縦走だったかもしれないけれど、楽しい山行きになったと素直に喜こべるものが胸に伝わってくる。

空木岳の下りで、事故には致らぬが2人滑落する。てれくさそうに破れたオーバーズボンをかきつけて笑うOBのKさん、ピッケルを放り出してしまった新人のNは距離を稼いだねとひやかされている。すっかり重くなった午後の雪に足を取られながら2,500m付近のコブまで降り、幕営する。コンパするには酒がなく、名残り惜しい食後のひとときを夜遅くまで語り合う。

1月3日

快晴。予定より2日も早い下山となり、山をあとにするのがつらくさえ思ふ。池山尾根は、大地獄から小地獄で多少緊張させられるが、越えてしまっからはアイゼンをとき、軽い服装で下山する。つるつる滑べる山道にはやぎまわり、おじぎをしたり尻もちついたりして菅ノ台に下山した。12時15分。

## 冬山合宿に思う

内 藤 正 司

合宿も無事終了した。反省会にはやはり参加したメンバー全員が集まって、いろいろと話し合っ  
てこそ一段階へ進む姿勢となると思う。あらためて天候のよかった事に感謝したい。計画の段階で  
初めてアイゼンを着けて歩く、いわゆる冬山が初めての者が4名いた。そこで厳冬期の縦走、たと  
え中央アルプスといえど厳しいので少し不安があったが思い切って参加させた。というのも9月か  
ら12月まで本当に熱心にトレーニングとミーティングに参加したことが、その不安も大部分無くな  
ったのだ。やはり、山登りの初歩である山に憧れ、その憧れに近づく為にトレーニングを積むこの  
姿勢は立派だった。それによって強い意志が培われる事になる。現場に入ったらやはり力が出てく  
る。試練を乗り越えてこそ、より高くより困難を求めるアルピニズムへ一步一步近づくと  
思う。

すべてうまく事柄が進み合宿は成功として出来上がったと思う。新人諸君はもう新人では無い。  
これから先自分自身の山行を考えた時冬山はこんなものであるとは考えてはならず、もっと厳しく、  
辛いもので、現実的でもある。各自の心が一致して初めて計画が成功するものと信じる。

全般的にもっと確実な行動とスピーディーな行動をしなければならない。

楽しい山行が出来た喜びは一生忘れられないものとして、これからの山行に憧れをもってガンバ  
ッてほしいです。私もまだまだ新人である。

## はじめての冬山

長 島 安 代

神戸山岳会に入って四ヶ月足らず、「冬山に行きます」とは言ったものとても不安だった。冬  
山という言葉のもつ漠然とした恐ろしさが頭から離れず、合宿が近づくにつれて増すばかりなので  
それ以上考えないことにした。回りの人たちからも「冬山に行くの?!」とさも恐ろしげに言われ、  
私には出すぎたことかもしれないと思いながらもとにかく行きたかった。なぜか興奮して夜行でも  
あまり眠れなかった。

9月の沢登りの時と同じ二合目の小屋で一休みして、いよいよ出発。道は雪がなく凍っているの  
でよくすべる。私一人ですべていた。今日は春山のような天気だそうでラッセルもなくみんな楽  
だ楽だと言っている。だけど私はしんどい。途中で立岡さんにザイルをもってもらった。こんなはずじゃ

なかったのに……。だんだん雪もふえてきて八合目テント場ではブロックが積んであり冬山に来たんだなという実感。テントに入って一安心した。

朝、まだ夜明けきらないうちからアイゼンをつけて完全装備で歩きはじめる。稜線に出ると風が強くて顔ばかり冷たかった。冷たいのを通りこして痛かった。今日はお正月、だけど初日の出にはお目にかかれずじまい。宝剣の下りではフィックスしてもらっていたけれど、のっけでこけてしまい、その後がとてものこわくなった。それから舟クボのテント地までの長かったこと、やけになってピッケルを雪につきさし、立岡さんのアイゼンの跡ばかり追って歩いた。ふかふかの雪の上で肩を組んで整地作業、とても楽しかった。

天気がかずれ沈殿になるのでは……。との心配（少しは期待もあったんだけど）をよそに空木岳へ向かう。前日より天気も穏やかで東川岳の下りはひざまでの雪の中をおり、空木の登りもひとふんばり。後ろに今まで歩いてきた稜線と前には池山尾根がずっと下のほうまで延びていてここを下るのかと思うと何だかホットした。急なくだりをこわごわおりていくと、やったッ、どのくらいすべったのかわらないけれど止まった時にはピッケルもほうり出していた。みんなびっくりしてかけよってきてくれた。私はというと、もうヒザがガクガクしてしまってとてもつらく思うように歩けなかった。だい分おりてきたのと木が回りにはえていたのとで何となく下界に近づいたなと感じた。いつもなら最優先であるはずの食事も今日ばかりはのどをとおらなかった。最後の夜、寝るのがもったいような気持ち。

翌日、南アルプスからのすばらしい夜明けを向かえ、二日間もはやく山から離れるのを残念に思いながら、だけど喜びいさんで下山、何度こけたことやら……。

私にとっては非常にしんどい、だけどそれ以上に楽しい、充分すぎる山行きでした。みんなはもったきびしさを求めて冬山にやってきたんじゃないかと思います。私がい分ペースをみだしてして頼りなかったと思いますが、みんな親切でいろいろ面倒をみてくださりとても感激しました。OBの方たちの細かい心使いが身にしみてうれしかった。女子一人だからといって困るようなことはぜんぜんありませんでした。本当にありがとう。「本当の冬山はこんなもんじゃない」という言葉を胸にしまって、来年もぜひ行きたい。

## 食料係としての反省

はじめての合宿なので計画の段階ではどのようにしたらよいのか見当もつかず、目新しいものとは思ったけれど今までの資料の中から引きぬいてきたような献立になってしまった。二日間もはやく下山したので、持っていった量が適当だったかどうかわからなかったが、行動食はやはり足り

なかったと思う。材料も調味料も最少限にしていたので、みなさん文句もいろいろあったと思いますが、残さず食べていただけたのが一番うれしい。

気がついた点などありましたら、ぜひ教えて下さい。

## 合宿の感想

幸 内 義 孝

行く前に宝剣岳の写真を見た。氷の山と云った感じだったので行けるかな？と心配であった。夏と同じく僕が一番先にバテるかもしれない等と行く迄は、不安であったけれど、又楽しみでもあった。

田中さんと秋に禰祭に行ったことが大変良かったように思う。次の山々と名前が判るし、又どれだけ登ればよいかも判るから。

先輩の皆さんは大変親切だと思った。足場の悪い所では“気をつける” “ザックに振られるな” 傾斜のある所での休憩の時のザックの置き方、岩場での登り降り等いろいろとその都度、注意してくれる。

疲れてくると後の方で“しんどいなあ”とか足がぐらぐらになってくると“ホクアシクラクラヨ”と云って笑わせる。皆、同じなんだなあと思う。

反省としては、思い切りがない、パッキングが遅い、寝る支度が遅い、整理整頓が悪い等。でも快適な正月山行だった。今年は正月からよく歩いたので、年中歩きっぱなしかな……？

## 冬山合宿に於ける自己反省

田 中 正 裕

今回の冬山は、僕にとって、初めての体験であった。天気にも恵まれ、快適このうえない山行でした。予想以上にピッチが進み、2日も早く、全行程を終え、無事全員下山出来たことは喜ばしい事です。

しかし、初めての冬山に於いては、自然は自分を少し甘やかしてしまっただけに思っています。ラッセルも無くば、吹雪もなし、沈殿も無かったことが、何かものたりない様を感じさせられる



のです。もちろん、それが理想であることは言うまでもありません。しかし、冬山が今回の山行のようであると思込んでしまつては、危険きわまりないことだと思ひます。むろん、滑落の危険はありましたが、それは自意的なものです。



合宿へ入る前は、ラッセル、吹雪、その他諸々の困難に  
対象するだけのトレーニング、ないし精神力を養ひなつて  
おくことを怠つては、いつ自然の猛威を受けるか分からな  
い、己をく正し、気合を入れて取り組まなければいけな  
いでしょう。

トレーニングが過大であっても、本番が過小であるなら、  
それは通ることです。もし、それが反対なら己を死の深淵  
へと運んでゆくかもしれません。

——準備は準備しすぎて、しすぎることはないのです。——

自分は、ともすれば、エゴイストでナルシシストになるのです。自分のイヤなことだと、気乗り  
がしないのです。そのくせ信念がなく、すなわち我ままなのであります。何かする時には緊張して  
へまをやらかしてしまうのです。信念がないということは、誠に精神的情緒が不定定なのです。結  
論とか、明確な答が欲しくなるのは、その不安定を脱したいからです。しかし何に於いても、結論  
や明確な答は出てくるものではありません。それが、「青春性」ではないでしょうか？

装備係として、反省することは、準備会での装備分担の際、僕はただ見ているだけで、何の意見  
も述べず、先輩にまかせきりで事を運んできました。またホエーブスのポンプの故障は、実にみな  
さんに、ご迷惑をおかけした事でしょう。ともすれば、冬山に於ける、コンロの故障は、事故の大  
きな原因のひとつになりかねません。これからは、下界では調子の良いのをいいことに、全部のパ  
ッキンをもっていかなかったことを反省いたします。すべてに於いて先輩のアドバイスのもとに行  
なわれたのです。僕はただそれを見物し、取得することだけです。今回の冬山は僕にとって好めて  
だったのでしようがない、といつてしまえばそれまでになってしまいますが、この山行で得た教訓  
は大きいものだと思ひています。

新人のために企画を組んでいただき、OB、先輩の協力により中ア縦走できたことを、心から感  
謝いたします。

## 冬山合宿・気象

気象担当 星 野 辰 也

12月31日 快晴無風。今年度の冬は雪が少なく中央でも上松四合目あたりから積雪を見、駒ヶ岳頂上付近でも2m弱であった。

天気図 弱い冬型。 気温 8時：3℃（三合目）、12時：4℃（五合目）、15時：3℃（八合目）。

1月1日 曇り後風雪、午前中南西午後より北西の風。正午の気圧配置をみると、銚子沖と九州南部にそれぞれ低気圧があり明日の悪天を予想させる。木曾駒頂上付近にて視界十数メートルと悪し。気温 8時30分：-18℃（宮田小屋）、12時：-12℃（宝剣岳）、13時20分：-8℃（檜尾岳）。

1月2日 晴。北西の風、低気圧が三陸沖に進んで冬型気圧配置となる。しかし日本海に弱い低気圧があり吹雪にはならず視界もよく北ア・白山・南ア・富士山等が雲海の上にクッキリと望める。気温 8時30分：-11℃（熊沢岳）、12時：-10℃（空木岳）、15時：-8℃（池山屋根テント場）

1月3日 晴。今朝は冷込みが厳しかったが、すばらしい朝焼けが望めた。しかし天気の方は今日一ぱいが限度という感じである。下山後宝剣をふり返ると厚いガスに覆われていた。雪も池山小屋より下ではほとんどない。  
気温 4時：-20℃（テント場）、8時：-8℃（大地獄）、12時：3℃（マセナギ～池山間）

## 合宿を終えて

立 岡 佐 智 央

ひとことと言って楽しい合宿になったことが僕はうれしいと思います。夏から秋にかけて、みんなまでトレーニングに汗を流し、準備してきたことが大きく実ったようで、僕はそれが一番うれしいことでした。冬山が初めての人にとっては何よりも充実した山行になったと思います。あんまりう

まく行きすぎて物足りないというものの、楽しい山行きはきっとこれからの山行のよい指標になることと思います。

OBの方々に一言。ひとつの楽しい山行をしようというのに、OBも先輩も新人もありますまい。日頃からのトレーニング例会に顔を見せてください。体力養成の為だけでなく、山仲間としての親睦を培ってゆくためにも——。

## 例会報告

### 氷ノ山スキーツアー 1月19日

幸 内 義 孝

楽しみにしていたスキーツアーの日が来た。まずシールを付けてみんなの顔は楽しそうだった。福定からの登りでシールを付けていてもよくスベッタ。スキーでよく鉢伏山からながめる氷の山は大きく見える。今日今登っていると思うと大変喜ばしく思われた。

風がピューピューと吹き寒かったけれど大変快適であった。途中から視界が悪くなり小屋まで行けなかったのが残念だった。でも又の機会があると思った。下りはワカンを付けた。いつも装備を付けるのは最後になる。ワカンは思うように足にくっついてきてくれない。敗残兵のように一二歩歩くごとにこける。足腰の弱いことを自分にいいながらおりている時、ふと加藤文太郎ってすごく強かったんだあと思った。

そして、スキーを付けての下り、楽しかったの一言。

と、中央アルプスよりきびしかった。

記 録 丹戸発5:50 橋6:50 東尾根稜線9:00 丹戸12:00

### 氷ノ山スキーツアー（東尾根～西尾根）

幸 内 義 孝

メンバー 立岡・野上・田中・宮本・幸内

3月2日、月夜だったが高雲あり夜明けの天候が気になってしょうがない。夜が明ける迄に尾根迄行けた。太陽が登るのを見て大変美しく雄大に感じた。その頃から曇空はしだいに青く風もなく大変よい天候だ。いつまでこの天候が続くだろう？

頂上は10:00迄に登らなかつたと思っていたのが9:50分という早さ、上々だ。いよいよ初めての西尾根だ。西尾根は下りというより平坦のようだ。雪質が大変悪くベツリで少々の下りだったら滑べらない。又、スキーの裏にベツリひっついて足が重い。すごく天気がよいというのも考えものだと思った。

高山の山頂迄行けば下りばかりというので、みんな頑張った。高山についた。そこからの下りは、ブッシュの中の急な下りで、スキーで少し下ったが、とてもスキーでは下れない。ワカンにはきかえた。ブッシュを越し、やせ尾根コルから急な林の中、それからスキーにはきかえ降る。雪質が悪い為ネンザしないようにと思う。スギ林に入るところ、もううす暗く川を二・三渡ったと思う。必死だったので覚えていない。それからスキーをはずし、真暗の中を歩く。ドサッと2~3m落ちたり、もうみんな必死だ！最後に又、川を渡るという。みんな急ぎ足。僕はいつもピリなので思った。もう、これ以上暗くならないのだからもっとゆっくりしたらいいのに。

少し歩いて自動車道路に出る。一応ホットする。さあ今日のうちに帰神しようと、無言で自動車道をみんなもくもくと歩く。

下山では猟師の足跡が大変役に立った。快晴の為、大変月影もよく成功だったろう。大変しんどく、大変腹がへり、大変楽しかった一日だった。

記 録	8:50 奈良田 発	6:05 東尾根避難小屋	9:50 氷の山
	10:20 二ノ丸	8:40 高山	7:40 長砂へ下山

## 妙見～蘇武岳スキー縦走(3月23日)

立 岡 佐 智 央

参加者 宮本・立岡

昨年来、狙い続けてきた縦走だけに、今年こそ是非とも成功させたいツアーのひとつであった。幸い、頼もしいパートナーに恵まれ、痛快なツアーの醍醐味を満喫することができた。以下記録報告。

3月23日

2時20分	日畑部落発
3時40分	妙見着 雪上にて仮眠
5時50分	同、発



6時45分 妙見峠  
8時20分 金山峠  
10時35分 蘇武岳  
12時30分 名色スキー場下山

## 大杣池集中登山 昭和49年9月8日

第三班 岸本・星野・長島

本日は台風の九州接近で相変らずの雨である。しかし我々はそれでも山へ行く。なぜなら、雨も又、山のもつ一面であるのだから。

10時発のバスに乗り、我々第三班は東下にて下車する。雨と低くたれこめた雲の為、バス停から1キロ程進んだ所でルートが判らなくなり、早くも生い茂る草で下半身ずぶ濡れとなってしまった。小休の後、引返して松の大木の所を左にルートを取り直し、それ以後緑のトンネルを快調に進み、帝釈山の東側の稜線へ出る。以後は自然遊歩道（太陽と緑の道）を一路東進し、県道に出て南下、稚子墓山へと登る。岸本さんに戦国時代の丹生神社、秀吉等の話を聞きながら進むうちに稚子墓山に着く。志久峠へ向う道との出合でやや遅い昼食を取る。もう速いパーティは大杣池に到着しているだろう。途中マムシに合って少々驚いた。池に着いたら、皆とっくに着いていて、寒そうに待っていた。さっそく中山へ向って下山した。

記録 東下 10:20 帝釈山東側稜線 11:30 稚子墓山 13:00  
大杣池 14:15

## 紅葉の黒部下廊下

新川利夫

会社の若い者から「黒部溪谷へつれて行ってくれ」と云われ、聞いて見るとNHKのTVで見えて感動したので是非一度行って見たいとの事。黒部ダムが出来てから行った事が無いし丁度紅葉も見頃だと思い同行者をつのつたが都合が悪く、結局比良位しか登った事が無いという新人を一人連れて下廊下を歩いて来た。

10月4日、大阪発の「くろよん」に乗り、翌朝大町から直ぐバスに乗継いで扇沢に着いたのが6時40分、トロリーは既に長蛇の順番待ちである。周遊券・団体優先とかでなかなか順番が来ず、10時半迄待たされてしまい頭に来る事夥しい。トロリーの終点から一般観光客とは逆の出口から抜けると立山の全容が一度に目に入って来る。素晴らしい快晴で紅葉の赤と青い空とが目にしみる様である。ダムに水を取られた黒部も内蔵助平の谷の出合あたりよりやっと溪谷らしくなってくる。別山沢には未だ雪渓が残っていて出合では渡るのに一苦労させられた。その頃より早くも足に豆をこしらえた新人は遅れがちとなって来たので些か重荷になったが、天気も良い事だし何とか明るい内に東沢の出合迄出ればよいとグッとピッチを落して歩く、お蔭でゆっくりと写真を取ったり景色を眺める事が出来た。

白龍峽あたりはさすがに素晴らしいが、雪渓のからみに時間を喰って一寸イライラさせられた。「もう少し、もう少し」と元気付け乍ら、やっと十字峽も過ぎS字峽・半月峽と馴れない者をつれているので緊張をゆるめる事無く、飽迄ペースを乱さずに歩く。東沢の出合の吊橋に出た頃は既に薄暗くなって居り、小雨がバラ付き出したがもう此処まで来れば大丈夫と夜に備えて紅茶を湧かし、腹ごしらえをする。仙人ダムの明るい灯が見えた時は本人もホッとした事だろうが、阿曾原迄未だ小1時間の発降がひかえて居り、気合を入れて尾根の登りに掛る。ピッケは益々落ちるが夜道に陽は暮れぬと尻を叩き乍ら阿曾原の小舎に着いた時は、さすがにやれやれと云った気持になった。

早速一人でライトをさげて河原の露天風呂に行き、温泉につかりながらワンカップを開けると良い気持になり、出るのが嫌になってしまう。

翌日も快晴。新人も大分元気を回復した様だし、昨日同様のピッチで水平道を辿る。昨夜の雨は尾根で新雪となったらしく、鹿島鍾・唐松・白馬の稜線は薄っすらと新雪の化粧をして居り、紅葉と共に昨日より一段と景色は素晴らしい。写真を撮ったり、お茶を湧かしたりのんびりと長い水平道を辿り樺平から沢山の観光客に混り宇奈月へ、温泉ですっかり汗を流し、宇奈月発の立山2号でその日の内に帰神した。



## 京 都 北 山

新 川 利 夫

昔はよく秋になると歩くトレーニングを兼ねて京都の北山へ出掛けたものであった。もう昔の様に月明を利用して夜通し歩いてアプローチをかせぐといった元気も無いが、久しく訪れてないので今年の秋は一つ北山を歩いて見ようと思いついた。

北山も御多分にもれず林道の開発や登山道の変遷があって昔の様子が失われつつあるが、それでも未だ静かなたたずまいを残して居り、秋の一日気ままに彷徨するには良い所であると思う。山岳会の例会も六甲周辺から脱皮して巾広い山行をやって欲しいものです。

### 石 仏 峠 ( 1 1 月 2 日 )

戦前であったか何にかの本で丹波と山城を結ぶ古い石仏峠の記事を読んだ事を覚えているが、一度棧敷岳から狼峠雲取山あたりの稜線をさまよって、結局分らず終いに終わった事があった。それ以来、幻の峠として一度は行って見度いと思っていた所、最近の本に依ると峠の位置も分り大分人も行く様になっているらしく、此の機会に訪れて見た。

雲ヶ畑行きはバスは三条京阪を午前7時30分に出るが幾ら日帰りと言っても早過ぎるので、あきらめて京都駅からタクシーを飛ばす。此の方が時間的に助かるし、雲ヶ畑の出合橋から更に松尾谷の林道を辿り直谷の出合迄入る事ができた。魚谷峠への道は昔乍らの木馬道で落ち着いた道である。紅葉も丁度盛りで感傷にひたり乍ら迎れる峠道である。峠を越えて医王沢に下ると道標がやたらと立っていて、狼峠の分岐点も石仏峠への谷にも地図を案ずる事なく、難なく行ける様になっている。些か拍子抜けの感が無いでも無いが、箱庭的な美しさと静けさが取柄である。

石仏峠を丹波側に少し下った杉の大木の根元に小さな石仏が置かれている。息をするのにも気がひける様な静寂の中で、時々丹波からの冷たい風が吹いて来るばかりである。早速酒を暖め、一人切りの屋の饗宴を繰りひろげた。

丹波側も良く踏まれて居り、イモジ谷の出合迄来ると立派な林道となり、そのまま井戸へ出てしまった。時間があるので常照皇寺を訪れたが、此処迄来ると観光客も少なく、未だ静かなものであった。帰途は周山乗替えて京都へ、小野郷あたりの景色は何時ながら良いが高雄は人の波であった。

### 氷室より持越峠 ( 1 1 月 3 0 日 )

玄塚迄の市バスは道路工事の為、紫野泉堂町から歩く。尺八池附近は住宅地となり、京都ゴルフ場ができて大分様子が変わってしまっている。

しかし、谷の奥の社の所から山に掛ると直ぐ北山らしくなり、特に「京に田舎あり」と云った言葉が思い出される。船山のコルからユリ道を辿るが展望もよく気持良く歩ける。城山を東にからんで峠状の所を越すと氷室である。陽だまりに小さく固まっている氷室の家屋、十字路の地藏尊等、電柱と納屋の自動車、農機具を取除くと昔そのままの絵となる風景である。

氷室から持越峠への尾根は511米の独標あたり迄は良い路だが、それからは笹が茂って少々歩きづらくなって来る。しかし、展望は左に愛宕、右は比叡から比良の山波、行方には城丹国境の稜線が望まれて展望を楽しながら辿る事ができる。565.6米の三角点を越すと真弓や雲ヶ畑の部落が展開して晴やかな気持になる。持越峠は車道となっていて削られた山肌が痛々しいが旧道は相変わらず細々と残っている。此処からは雲ヶ畑へ出ようと真弓に出ようと一足投である。

ステッキを立てて倒れた方向、真弓に下ったが、結果的にはその方が良かった。ブラブラ歩いて杉坂口に着くのと、京都行きのバスが来るのと同時であった。

(新川)

次に北山で歩いて見渡しの所は祖父谷峠より尺童山への城丹国境の稜線と瓢箪崩山(名前が面白いので)から江文峠・金比羅山の岩場を経て寂光院へ、何れも一日の行程としては面白いのではないかと考えています。同行の志は連絡下さい。

## 八ヶ岳・広河原沢・奥壁 三ルンゼ登攀

昭和50年1月1日～3日

内藤保一・宮本朋之



## 比良山・個人山行

メンバー 田中・幸内

田中君より比良は美しい所と聞いた。3月21日、近江舞子を降り林道を行く。

月あかりのある雨だ。なんともいえない天候で明日の天候が気になる。その晩一日じゅう雨で、シュラフ体すべてベタベタになる。

3月22日朝、縦走か武奈岳だけにするか迷ったが武奈岳で決めることにした。雨の道を登ってゆくとしだいに雪に変わる。尾根は大変な風で飛ばされそうになる。ロッジ、比良スキー場とカイテキに進む。武奈岳の手前で道に迷い、神戸山岳会一年生にはまだまだ無理なのかと思う。でも何とか武奈岳山頂につく。

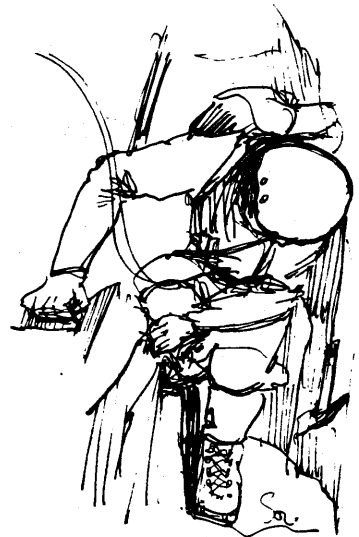
ガス30~50mの視界だった。地図をよく見る事を覚える。打見山までトバシにとばし、よーいどん、どっちがばてるか競争だ。

4時間程で打見山につく。左斜面、琵琶湖側が切れていたが、反対側がそうでないので別にこわくもなかった。リフトの下でテントをはった。漏れたシュラフにいやいやはいたが、体はいつこうに暖かくならない。それどころか歯がカチカチ鳴る。漏れたシュラフがこんなに寒いものかと思う。朝迄とうとう寝られずじまい。

3月23日、快調。花折迄トットッ歩く。10:00に花折につく。

三千院迄歩くことにする。何と自動車道路休まず2時間30分

三千院へ入ったが、やっぱり山の美しさにくらべると、何とつまらなく感じた。足はふやけ、痛くつかれとともに四条河原町へ急ぐ。



## 八ヶ岳 3月8日～9日

参加者 内藤 2・立岡・宮本・星野・田中・幸内・長島・片山 8名  
行動記録

3月8日 小海線・茅野駅～八ヶ岳農場・学林発 8:20  
御小屋山 13:00  
2,500m地点 16:40 ビバーク

3月9日 同ビバーク地発 7:30  
阿彌陀岳 9:00  
赤岳 10:00  
行者小屋 10:50  
美濃戸口 13:00

## 床尾山

(パーティ) 新川・野上(博)

4月19/20日

残雪を踏んで雪の円頂に登るといふ目論みて行った床尾山も時期既におそく山ひだに僅かに雪が残っている程度で、まずは期待を裏切られた事と雪が無くとも東床尾山から西床尾山に縦走し、糸井溪谷に下れるだろうと思っていたが、踏跡すら見出せず結局北側の相野から東床尾山を往復したに止まってしまった。

それにしても相野口のバス停の所に「県立自然公園床尾山」と彫られた立派な石碑が立っており、東床尾山迄道標も完備しているし、東床尾の往復では物足りぬのでは是非糸井溪谷を結ぶ道をつけて欲しいものである。

頂上から望見する氷ノ山・鉢伏には未だベッタリと雪が残っていたが、やはり標高が低いので、今後行くなら3月下旬が良いのではないかと思う。スキーは頂上稜線迄かつき上げれば良いが、麓の部落からスキーで往復するのは一寸無理の様な気がする。

ブッシュ漕ぎを覚悟するなら糸井の谷へ適当に見当を付けて下ると、おそらく谷に出る前に踏跡を見出すであろうし、出石の観光と組んで行くのも面白いと思う。

宿泊は出石に旅館があるが、出石の東北、八坂（ハツサカ）の山崎さんが農家一棟を開放して民宿をやっている。町から離れていて歩いて約1時間位掛るが連絡さえすれば出石迄車で迎いに来てくれるし、翌朝も山林の人夫を集める為、早く車を出すので相野迄乗せてもらえるから便利である。自炊だが米・野菜・調味料は不要、寝具も食器類も使わせてもらって一泊 ¥1,500 電話がないので出石町役場産業課(079652)8111に申し込む。 以上参考まで

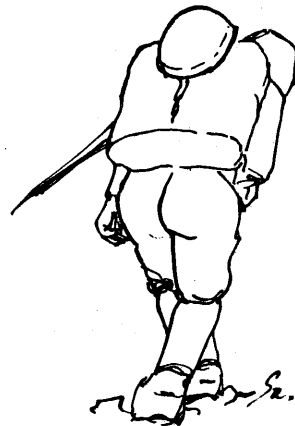
## 木曾駒ヶ岳集中沢登り S.49.9.22~23

奥三ノ沢班 … 内藤保・三浦・星野

星野辰也

夏山以来、一ヶ月ぶりに中央線に乗る。初めての沢登りに期待と不安のうちに、木曾福島駅に降りる。途中木曾駒高原夜間ドライブというハブニングがあったが、どうにか上松登山口に着く。あいにくの雨、小屋で信州ソバを食べて仮眠する。登山口から滑川本谷を目差して出発する。雨は山頂附近では雪のようだった。岩のごろごろした滑川本谷を遡行すること1時間半程、我々の目的とする奥三ノ沢合に出かけた、と我々は思ったのである。事前のルート研究不足の為に我々が登ったのは奥三ノ沢とは三ノ沢岳を間して反対側（北側）のA2であった。他のパーティと明日の再会を約束し、雨の中、地下足袋とわらじに身を固めいよいよ登攀開始である。取付からツルツルの80m程の滝をわらじのフリクションで一気に登りきる。

続いてゆるい滝を数10メートル登ると70m程のシャワータイムとなる。雨具を通して水しぶきが肌に冷たい。これを登りきった所で20mの滝の直下で小休止。この頃雨も上がり、雨具を脱いで身軽になり、ややハングした草付の嫌な所をだましだまし登る。以後、水は涸れ、スタンス・ホールドの豊富な10mの涸滝を2つ登ると、上部がガレた40mの岩場で沢は終わっていた。以後樹林帯となっている。どうも様子がおかしいのである。あまりに沢の上部に到達するのが早すぎる。それから4時間に及ぶハイマツ漕ぎがこれから始まると、誰が予想しただろうか。行けども行けども山頂は一向に近づかない。このルートはほとんど人跡がなく、わずかに積雪期の記録がある位である。なんとかかんとかしながら、ついに三ノ沢岳山頂に辿り着く。すばらしい夕焼けを見た後、さっそくピバークの準備をする。僕のミスで水不足のピバークであったが、快適であつ



た。降るような星空と、素晴らしい日の出が我々の友達である。

朝、記念写真を撮り、他のパーティに合流すべく静かな山頂を後にする。

#### 行動記録

9月22日 木曾福島4:00 上松登山口7:20 敬神の小屋8:20 滑川出合9:20  
～三ノ沢出合10:20 三ノ沢A2出合12:00 20mの滝直下14:00  
三ノ沢岳北方稜線14:20 三ノ沢岳17:45

9月23日 三ノ沢岳6:20 宝剣岳8:20 宮田小屋9:30 玉の窪小屋10:20  
敬神小屋13:30 二合目バス停14:15

### 会員動静・編集後記

- ただ今、K A C新入会希望の問い合わせが30名もあることを聞き、案内広告の威力もさることながら(岳人・山溪4月号掲載)、この現象をどう受け止めたものかとしばし戸惑いがちです。しかし新しい仲間がひとりでも増えることは、素晴らしいことだと思います。願わくば、新入会の方々がこのK A Cにすがすがしい新風をもたらしてくれることを切に期待してやみません。
- 次号より本誌の編集担当を長島君をはじめ、片山君、星野君たちにバトンタッチすることになりました。月報のはずが、いつの間にか季報になり、なんら既成のワクから踏み出せず、ただ原稿整理にとまどった私の努力不足を恥入るしだいです。K A Cの実りある機関誌として、私たちの結晶として新しい編集委員諸君が受け継ぎ、育ててくれることを期待しております。会員諸賢の暖かい声援をお願い致します。
- 信州の山々も雪の季節に別れを告げ、時季はずれの春告げ鳥がホーホケキョと鳴けば、体の何処かでカタンと門がはずれ、嗚呼この春うららのゆううつ風に右に左に揺られて、だから時には柳の葉のように春雨にしっとり濡れて、うつろにへらへらと笑ってみたい。

立岡 さちお

原稿提出の要点

- 20 × 20 原稿用紙に楷書で横書き
- 〆切期限厳守
- 原稿提出先

神戸市灘区高德町5丁目3-1

内 藤 正 司

神戸市灘区上野通1丁目2-35 413号

長 島 安 代